

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

令和元年7月17日

農業技術課 広域普及指導センター

1 生育状況（実証ほデータ）

前年に比べて、草丈、葉齢、葉色は並み、茎数はやや多くなっている。

幼穂形成期は、前年より1日早い7月12日となった。

今後、気温が平年並みに推移すると、出穂期は、前年並みの8月2日頃と見込まれる。

表1 「富富富」の生育状況（7月16日 栽培実証ほ）

年次または 試験内容	ほ場数 (筆)	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色		幼穂 形成期	出穂期
				(本/株)	(本/㎡)		葉色板	SPAD		
R元	12	5月13日	69.2	25.2	544	12.4	4.2	37.8	7/12	(8/2)
H30	19	5月15日	70.9	23.7	520	12.4	4.2	36.7	7/13	8/2
H29	16	5月14日	67.8	25.6	529	12.2	4.1	36.2	7/12	8/3
前年比・差		-2	98	106	105	0.0	0.0	1.1	-1	(0)
早期田植栽培	6	5月4日	72.9	26.9	575	12.7	4.1	38.5	7/9	(7/30)
高品質安定栽培	6	5月15日	68.6	24.8	548	12.2	4.1	35.7	7/12	(8/2)

注)R元・平均:生育観測栽培と高品質安定栽培・対照区(合計12ほ場)の平均

H30およびH29:特別栽培米を除く、それぞれ19および16か所の平均

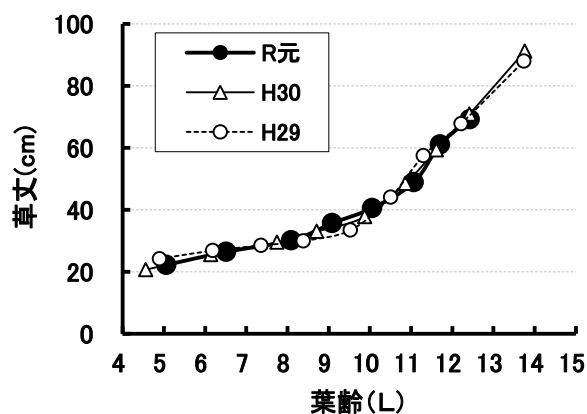


図1 草丈の推移（富富富実証ほ）

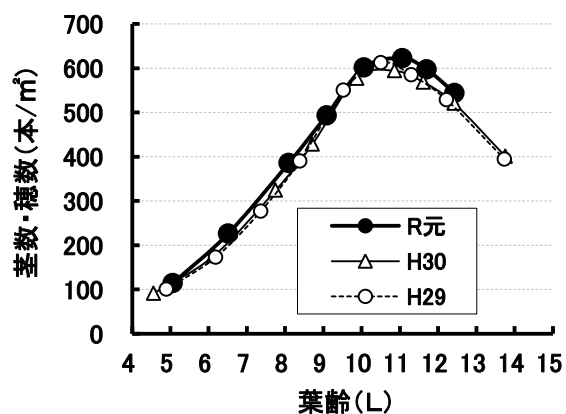


図2 茎数の推移（富富富実証ほ）

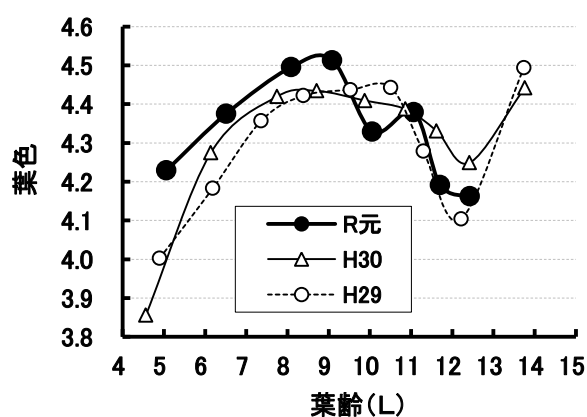


図3 葉色の推移（富富富実証ほ）

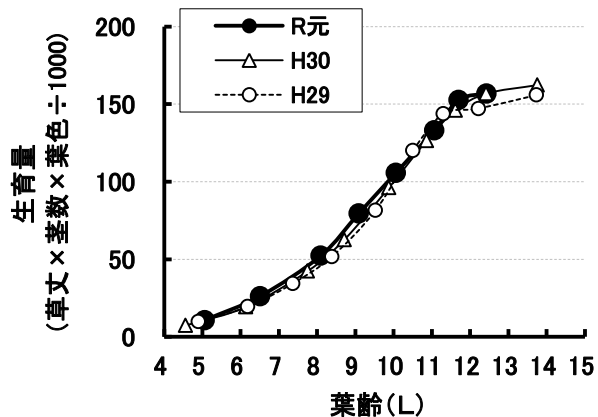


図4 生育量の推移（富富富実証ほ）

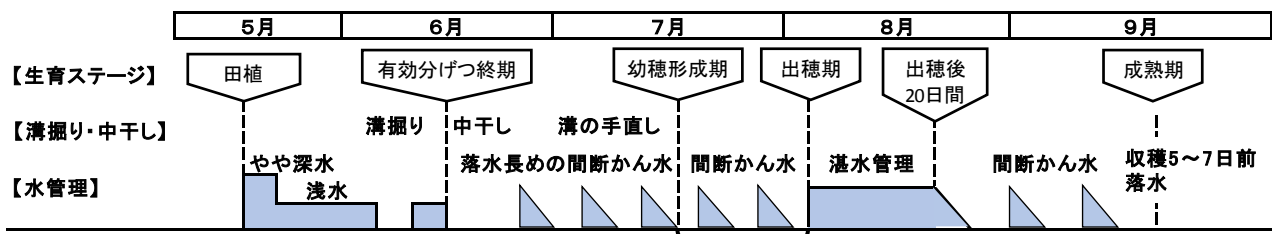
2 当面の技術対策

- ・ 茎数が多く葉色が濃いほ場が多いことから、幼穂形成期から出穂期までは間断かん水を行う。
- ・ 出穂期以降 20 日間は湛水管理を徹底する。
- ・ 分施栽培では、2 回目の穂肥を確実に施用する。
- ・ 肥効調節型基肥栽培では、原則、追加穂肥は施用しない。ただし、幼穂形成期 14 日後の葉色が淡い場合は、追加穂肥を施用する。

(1) 水管理

- ・ 本年は、茎数が多く葉色が濃いほ場が多いことから、幼穂形成期から出穂期までは間断かん水を行い、過剩籾数を防ぐ。
- ・ ただし、幼穂形成期の茎数が 580 本/m²以下で、かつ SPAD 値 35 (群落葉色 4.0) 以下の場合には、飽水管理を行い、稲体や根の健全化を図る。
- ・ 出穂期以降 20 日間は湛水管理を徹底する。

<水管理のイメージ>



※マニュアルには、「飽水管理」と書かれているが、本年は、葉色が濃いほ場が多いことから、幼穂形成期から出穂期まで間断かん水を行う。

(2) 「富富富」分施栽培における 2 回目穂肥

- ・ 1 回目の 7 日後に窒素成分で 1.5kg/10a を確実に施用する。ただし、1 回目穂肥を施用しない場合は、幼穂形成期の 14 日後に窒素成分で 1.5kg/10a 施用する。
- ・ ただし、2 回目穂肥を施用する時期の群落葉色が 4.2 未満の場合は、穂肥量を窒素成分で 2.0kg/10a 施用し、穂揃期の葉色を 4.5 に誘導する。

(3) 「富富富」肥効調節型基肥栽培の管理

- ・ 原則、追加穂肥は施用しない。
- ・ ただし、幼穂形成期の 14 日後の SPAD 値 32 (群落葉色 4.2) 未満の場合は、出穂 3 日前(走り穂が確認される頃)までに窒素成分で 1.0kg/10a 程度の追加穂肥を行い、穂揃期の SPAD 値 35 (群落葉色 4.4) に誘導する。

(4) 病虫害および雑草防除

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるように留意する。

①カメムシ類

- ・ 畦畔等における斑点米カメムシ類の確認地点率は平年より高くなっていることから、

適期を逃さず、確実に防除を行う。

- ・ 近隣に雑草地や麦あと不作付地等がある水田では、カメムシ類の発生が多くなるので、防除を徹底する。
- ・ 本田内のノビエやホタルイは、アカスジカスミカメの侵入を招き、斑点米被害を助長するので、除草に努める。

② 紋枯病 ※平年の初発確認日：6月23日 (R元：6月26日)

- ・ 前年多発したほ場で箱施薬剤を施用していない場合は、出穂3～4週間前(粒剤)、または、品種ごとの散布適期(粉剤、液剤等)に防除を確実に行う。
- ・ その他のほ場では、要防除水準を参考にし、必要に応じて適期に防除を行う。
※「富富富」の要防除水準は「コシヒカリ」に準じる。

表5 紋枯病の防除要否判定時期(薬剤散布適期)と要防除水準

品種	薬剤散布適期 (防除要否判定時期)	要防除水準 (発病株率)
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%

農薬散布に際しては、周辺住民への事前の周知と農薬の飛散防止を徹底する。